村 井 良 和 氏
旭日双光章受章を祝う会

平成23年10月２日(日)

盛 岡 グ ラ ン ド ホ テ ル

1 内容

（1）村井先生の水泳に関するご功績

氏名　村井良和　昭和九年三月二十七日生まれ

中学校、高等学校時代から岩手を代表する競泳の選手であったが、日本大学在学中は、先輩である古橋広之進（故日本水泳連盟名誉会長）選手とともに、水泳に取り組み各種大会で活躍した。

選手時代を含め四十五回の多々にわたり国民体育大会に選手・監督として参加。平成五年の国体で国民体育大会功労者特別表彰を受けた。

また第二回アジアエージグループ水泳大会に日本選手団コーチを務め、平成七年（財）日本水泳連盟ジュニアブロックニュウジーランド遠征日本選手団団長としてオリンピック日本代表を育成する責任者としてその使命を果たした。

以上のように長きにわたり岩手の水泳の普及発展に誠心誠意取り組み、現在もまた情熱を持って其の責務を果たしております。

水泳競技関係役職歴及び功績

昭和三十一年	岩手水泳協会若手役員として手腕を発揮した。
昭和三十七年	岩手水泳協会から岩手県水泳連盟に改称と同時に常務理事に就任。組織強化に取り組み盛岡水泳協会を立ち上げ、新進気鋭の理事長として盛岡スイミングスクールを新設し、水泳の普及発展に尽力した。 盛岡スイミングスクールは、そのたち上げから奔走し、現在まで延べ十五万人の卒業生を輩出。
昭和四十八年～（三年間）	岩手県水泳連盟理事長兼盛岡水泳協会理事長として東北大会の運営等手腕を発揮した。
昭和六十二年～平成十二年	岩手県水泳連盟理事長に再任され、水泳連盟組織体制の確立と強化に尽力するとともに岩手インターハイの大成功に手腕を発揮した。
平成十三年～ 現在	岩手県水泳連盟副会長として岩手で行われた全国大会などに岩手を代表する「顔」として全国から来る役員をおもてなしいただいたり、運営面での貴重なアドバイザーとして力を発揮していただいております。

2 水泳の栄誉に関する事項

昭和五十二年　盛岡市体育協会功労賞
平成　　五年　国民体育大会功労者特別表彰
平成　　六年　岩手県体育協会功労賞
　　日本水泳連盟有功賞
平成　十三年　東北体育協会連合会スポーツ振興功労賞
平成　二十年　岩手県教育表彰（社会体育功労賞）

平成二十一年　文部科学大臣表彰（生涯スポーツ功労賞）
平成二十三年　叙勲　（旭日双光章）

（２）村井先生の岩手県パン工業組合でのご功績

１ 内容

昭和五十一年　日本パン科学会が岩手県産のハチマンコムギ、ナンブコムギなどを使用した内麦加工利用法の開発研究に着手その後、岩手県パン工業組合が研究開発を受け継ぎ、大きな成果を挙げることができた開発研究の中核として尽力した。また昭和５８年には、地場産業総合振興事業の「県産小麦、及び大麦を使用したニュータイプパン」の開発にも率先して取り組み全国でも有数の取り組みをいち早く取り組んだ立役者である。

平成　四年　平成６年まで３年間地域中小企業技術高度化事業「細胞融合による有用パン酵母の開発」の中心的役割をにない、研究開発型組合として岩手県パン工業組合の存在を全国に知らしめた功績は大なるものがある。

平成十一年　岩手県パン工業組合創立５０周年記念事業として岩手大学農学部との共同研究「県産米の粉化の試験研究」に着手。その成果を「玄米粉の製造方法、玄米粉を用いたパン類、キビ粉の製造方法及びキビ粉を用いたパン類」として特許を取得。現在広く全国に知れわたっている米粉パンの研究開発にも積極的に取り組み成果を上げた。

平成十三年　以上のような功績によりこの年５月より岩手県パン工業組合理事長に就任。以降、地場産小麦使用パン、米粉パン製品の研究継続・販売とともに学校給食パン製造など岩手県内の児童・生徒の学校給食改善と食育の向上のために尽力し続けております。

（３）村井先生の岩手県保護司会でのご功績

平成　四年　盛岡河南分区保護司として、積極的に活動。少年院訪問や相談活動に誠心誠意取り組んだ。

平成　十三年　誠意あふれる活動と行動力が評価され、盛岡に五地区ある分区の分区長に推薦され、引き受ける。上に立つものとして、保護司の先頭に立ち、熱意あふれる活動を行った。

平成　十四年　盛岡地区保護司会会長に推薦され、会長として社会を明るくする運動県民大会や各種大会に保護司の代表として出席し、その責務を全うするとともに、若人の更生に現在も尽力している。

2　保護司会の栄誉に関する事項

平成　十三年	河南地区分区長
	東北地方保護司会連盟会長表彰受賞
平成　十四年	盛岡地区保護司会会長に就任
	盛岡市長感謝状
平成　十七年	岩手県知事感謝状
平成二十一年	全国保護司連盟会長表彰
平成二十三年	法務大臣表彰　（十月四日「第３６回岩手県更生保護研究大会」で受賞することが決定しております）

平成２３年度盛岡地区保護司会総会
挨拶

平成２２年盛岡さんさ踊り反省会

平成１５年岩手産業文化センター
「農林水産フェア」玄米粉パンＰＲ

岩手県工業技術センター主催
「製パン技術講習会」参加者への講義

人

勤労青少年福祉功労者として労働大臣表彰を受けた

村井良和さん

日本大卒。昭和58年県パン工業組合専務理事。62年糧玄食品社長。盛岡市上ノ橋町1の48。同市生まれ、62歳。

働く若者のために労働条件の改善などに取り組む勤労青少年福祉員。県パン工業組合の同福祉員として表彰を受けた。

「それほどのことをしているつもりはない。功績内容を書いた人も苦労したのでは」と笑って謙そんする。

しかし、組合で全国規模の厚生年金基金を設けるなど若者が安心して働く職場づくりに心を砕いてきた。

朝が早く、パート労働者も多いパン業界。最近は「焼きたて」の要求が強まり、従業員の労務管理は難しくなっている。来春からの週四十時間労働制に向け組合で勉強会を開くなど準備を進める。

「本音は週四十時間だと経営的に非常に苦しい。大手から零細まで各店の特性はあるが、業界に若者を定着させるためには全体で考えなければならない」

組合の目標は、県産の小麦や酵母を使った岩手独自のパンを作り出すことだ。通産省の補助を受けて昭和五十年代から研究開発を続けている。

「パンの持つ食文化を岩手から発信したい。まだ道半ばだが、終点のない事業で理想に向かって頑張る」と意欲を燃やす。「最終的には岩手のパンを学校給食に出したい。小さいころから主食にしてほしいから」

自然食、健康食を勧める盛岡正食普及会も手掛ける。先祖は近江商人。父親の代まで井筒屋弥兵衛を襲名してきた。「これまでの人生でピンチになったりいろいろあったけれど、おやじに教育されたと思っている」とき父に感謝する。

学生時代は背泳ぎの選手。今は県水泳連盟の理事長として、後進の指導に当たっている。

《自己診断》物差しが長すぎる。

（郷右近勤記者）

輝く功績

▽旭日双光章
村井　良和さん（77）
県パン工業組合理事長、県水泳連盟副会長
盛岡市本宮字稲荷25の1

食と水泳を通じて、地域に根差した人材育成に情熱を傾ける村井良和さん

パン、水泳の普及貢献

「子どもの味覚は鋭い。地域が育んだ自然なおいしさを伝えたい」。長年、県パン工業組合のけん引役として手腕を発揮し2001年、同組合理事長。研究機関と連携し育種から県産小麦にこだわったパンを開発製造し学校給食を充実させた。

本県の水泳競技の普及発展にも大きく貢献。中学時代から本県を代表する選手として活躍し、故古橋広之進さんとの親交も厚かった。

1973年県水泳連盟理事長、01年から同副会長。シンクロナイズドスイミングの高橋馨選手を発掘し、銅メダルに輝いた96年のアトランタオリンピックへの道筋を開いた。「水泳が人とのつながりに役立てれば」。盛岡少年院で40年以上、水泳指導をしている。盛岡市加賀野3丁目出身。

本県水泳競技に貢献

盛岡市本宮 村井良和さん(77)

盛岡市本宮の村井良和さん(77)は本県の水泳教育振興で旭日双光章を受章した。選手、監督として45回の国体出場を誇る。「絶えず自分の弱みがあり、水泳を通して克服してきた。その道一筋で頑張ってきたことに対する受章だと思う」と喜びを語った。

村井さんは1934年3月27日、体重1キロほどの超低出生体重児として生まれた。成長しても同年代の友人と比べて小柄だった村井さんは、当時市内で唯一プールのあった城南小学校に入学。体型に関係なく同級生と競える水泳と出合った。「校内大会で優勝したときに、母親がゆで卵を持って応援に来てくれたこと、賞状が今の名刺くらいの大きさだったことを覚えている」と当時を振り返る。旧制岩手中学に進学し、2年生時にこれまでの長距離から背泳ぎに転向。直後の県大会で優勝し全国ランキング入りするなど活躍を重ね、国体など多くの全国大会に出場してきた。

大学卒業後、昭和30年代に盛岡市水泳連盟を設立。当初は学校プールの監視員をしながら指導をしていたという。市営プール設立に当たり当時の工藤巌市長と設計について対談し専門家としての意見を述べ、連盟主催のスイミングスクールの開催など、県の水泳レベルの発展に貢献してきた。

「学校のプールには教育、市民プールには安全に楽しむなど、プールに求められる役割が違う。競技によっても使用するプールが違う」と設計の重要性を語る村井さん。「全国、世界の競泳のレベルは上がっているが、県のレベルも確実に上がっている。今後各種目で活躍する選手も出てくる」と県競泳界に期待している。

県の水泳振興に貢献した村井良和さん